

令和8年度

# 病害虫発生予察情報

第5号

## 5月月報

北海道病害虫防除所 令和8年(2026年)6月15日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

### I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

—かなりの高温も、日々の気温変動大。オホーツク海側で記録的な多雨。—

5月は、偏西風が平年より北を流れて暖かい空気に覆われる日が多かったため、日本海側と太平洋側の気温はかなり高かった。一方で、北から冷たい空気が流れ込む日も多くあって気温の変動が大きく、冷たい空気の影響を受けやすかったオホーツク海側の気温は平年並だった。また、発達した低気圧が北海道付近を通過することが多かったため、降水量はオホーツク海側でかなり多く、日本海側で多かった。オホーツク海側の降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、5月として大きい方から第2位の記録となった。一方で、高気圧に覆われて晴れた日も多かったため、低気圧の影響を受けにくかった太平洋側の日照時間は多かった。

上旬：発達した低気圧が北海道付近を通過することが多かったため、北海道地方の降水量はかなり多かった。オホーツク海側の旬降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、5月上旬として大きい方から第1位の記録となった。また、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。特に、北からの冷たい空気の影響を受けにくかった太平洋側ではかなり高く、旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、5月上旬として大きい方から第2位の記録となった。

中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北海道地方の降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。

下旬：高気圧に覆われる日が多かったが、28日には発達した低気圧が北海道付近を通過し、日本海側を中心にまとまった雨となった。このため、降水量は日本海側で多かった一方、低気圧の影響を受けにくかったオホーツク海側で少なかった。暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温は高かった。

#### 気候表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+1.5	か高	139	多	104	並
日本海側10 地点平均	+1.4	か高	136	多	100	並
オホーツク海側4 地点平均	+1.3	並	224	か多	98	並
太平洋側8 地点平均	+1.6	か高	101	並	111	多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

## II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

### A. 水稲

#### 1. ヒメトビウンカ 発生期 やや早 (第1回成虫) 発生量 やや多 (第1回成虫)

予察田の畦畔すくい取りによる第1回成虫の初発期は、長沼町で4月6半旬(平年:5月3半旬)と平年より早く、比布町で5月3半旬(平年:5月4半旬)、北斗市では5月2半旬(平年:5月3半旬)と平年よりやや早かった。畦畔すくい取りによる成虫の捕獲数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町で平年より多く、北斗市では平年より少なかった。

畦畔におけるヒメトビウンカのすくい取り数

月・半旬	長沼町				比布町				北斗市			
	幼虫		成虫		幼虫		成虫		幼虫		成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	7.5	3.0	48.0	0.4	20.0	9.8	0	0	0	1.8	0	1.3
2半旬	0	2.7	7.5	9.2	20.0	2.0	0	0	0	1.3	2.5	0.3
3半旬	0	1.0	6.3	14.1	9.0	6.6	8.0	2.1	0	0.3	0	3.9
4半旬	0	0.1	0	4.3	11.3	3.5	98.8	33.8	0	0	0	4.8
5半旬	0	0.1	2.5	4.9	0	2.0	83.3	66.8	0	0.3	0	3.0
6半旬	0	1.8	2.5	4.5	0	1.3	42.5	48.7	0	0.5	0	3.8
平年数	10				10				10			

注) 20回振り×5日分換算値

### B. 秋まき小麦

#### 1. 赤さび病 発生期 早 発生量 やや多

予察ほの「きたほなみ」における初発期は、いずれの地点でも平年より早かった。発生量は、長沼町で平年並、芽室町及び訓子府町で平年よりやや多かった。一般ほにおける巡回調査結果では、空知、網走、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおける赤さび病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	きたほなみ	4月4日	4月15日	10
芽室町	きたほなみ	4月10日	5月11日	10
訓子府町	きたほなみ	4月8日	5月12日	10

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			5月2半旬		5月4半旬		5月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	全葉	0.17	0.16	0.28	0.26	0.46	1.32	10
		最上位葉	0	0	0	0	0.04	0.02	
		最上-1葉	0	0.02	0.01	0.01	0.27	0.33	
芽室町	きたほなみ	全葉	0.01	0.00	0.01	0.00	0.04	0.01	10
		最上位葉	0	0	0	0	0.00	0	
		最上-1葉	0	0	0	0	0.01	0	
訓子府町	きたほなみ	全葉	0.02	0.00	0.05	0.01	0.17	0.09	10
		最上位葉	0	0	0	0	0	0	
		最上-1葉	0	0	0	0	0	0.00	

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター	病葉率(%)				普及センター	病葉率(%)						
	5月3半旬		5月6半旬			5月3半旬		5月6半旬				
	本年	前年	本年	前年		本年	前年	本年	前年			
空知	本所	0	0	0	0	留萌	本所	0	0	0	0	
	南東部	0	0	0	0		網走	本所	—	—	0	0
	南西部	0	0	0	0			清里	—	—	0	0
	北空知	0.8	4.8	0	0			網走	—	—	0	0
石狩	本所	0	0	0	2.7	美幌		—	—	0	0	
	北部	0	0	0	0	遠軽	—	—	1.6	0		
後志	本所	0	0	0	0	紋別	—	—	0	0		
胆振	本所	0	0	0	0	十勝	本所	0	0	0	0	
	東胆振	0	0	0	0		東部	0	0	0.5	0	
檜山	本所	0	0	0	0		東北部	0	0	0	0	
	北部	0	0	0	0		北部	0	0	0	0	
上川	本所	0	0.3	0	1.3		西部	0	0	0	0	
	富良野	0	1.3	0	2.7		南部	0	0	0	0	
	大雪	0	0	0	0							
	士別	0	0	0	0							
	名寄	0	0	0	6.7							

注1) — :調査時期外のため未調査

注2) 病葉率:最上位葉の1枚下の葉の病葉率

2. うどんこ病 発生期 遅 発生量 少

予察ほの「きたほなみ」における初発期は、長沼町及び芽室町で平年より遅く、訓子府町で平年並であった。発生量は、長沼町で平年並、芽室町および訓子府町で平年より少なかった。一般ほにおける巡回調査結果では、発生は認められなかった。

予察ほにおけるうどんこ病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼	きたほなみ	5月9日	4月29日	10
芽室	きたほなみ	5月29日	5月14日	10
訓子府	きたほなみ	5月11日	5月10日	10

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			5月2半旬		5月4半旬		5月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	全葉	0.01	0.06	0.10	0.07	0.03	0.07	10
		最上位葉	0	0	0	0	0.00	0.00	
		最上-1葉	0	0.01	0	0.00	0.02	0.03	
芽室町	きたほなみ	全葉	0	0.00	0	0.01	0.00	0.03	10
		最上位葉	0	0	0	0	0	0	
		最上-1葉	0	0	0	0.00	0.00	0.00	
訓子府町	きたほなみ	全葉	0	0.03	0	0.05	0.01	0.05	10
		最上位葉	0	0	0	0	0	0	
		最上-1葉	0	0.00	0	0.01	0	0	

一般ほでのうどんこ病の巡回調査結果

普及センター	病葉率(%)				普及センター	病葉率(%)						
	5月3半旬		5月6半旬			5月3半旬		5月6半旬				
	本年	前年	本年	前年		本年	前年	本年	前年			
空知	本所	0	0	0	0	留萌	本所	0	0	0	0	
	南東部	0	0	0	0		網走	本所	—	—	0	0
	南西部	0	0	0	0			清里	—	—	0	0
	北空知	0	0	0	0			網走	—	—	0	0
石狩	本所	0	0	0	2.7	美幌		—	—	0	0	
	北部	0	0	0	0	遠軽	—	—	0	0		
後志	本所	0	0	0	0	紋別	—	—	0	0		
胆振	本所	0	0	0	0	十勝	本所	0	0	0	0	
	東胆振	0	0	0	0		東部	0	0	0	0	
檜山	本所	0	0	0	0		東北部	0	0	0	0	
	北部	0	0	0	0		北部	0	0	0	0	
上川	本所	0	0	0	0		西部	0	0	0	0	
	富良野	0	0	0	0		南部	0	0	0	0	
	大雪	0	0	0	0							
	士別	0	0	0	0							
	名寄	0	0	0	0							

注1) —: 調査時期外のため未調査  
注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生期 やや早 発生量 並

予察ほのすくい取りによる成虫の初発期は、長沼町で5月10日(平年:5月14日)、比布町では5月14日(平年:5月18日)と平年よりやや早かった。成虫のすくい取り数は、長沼町で平年よりやや多く、比布町では平年よりやや少なかった。

予察ほにおけるムギキモグリバエのすくい取り数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	0	0	0	0
2半旬	2.5	2.9	0	0
3半旬	10.0	20.0	1.0	3.4
4半旬	43.8	33.0	27.5	14.4
5半旬	49.2	84.5	78.3	86.0
6半旬	160.0	99.6	95.0	239.3
平年数	10		10	

注) 20回振り×5日分換算値

## D. てんさい

### 1. テンサイトビハムシ 発生期 やや早 発生量 並

予察ほにおける被害の初発期は、長沼町で5月2半旬（平年：5月3半旬）と平年よりやや早く、芽室町で5月1半旬（平年：5月3半旬）と平年より早く、訓子府町では5月3半旬（平年：5月3半旬）と平年並であった。食害程度は、いずれの地点も平年並であった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシによる食害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	0	1.1	1	0	-	0
2半旬	8	1.8	2	1.6	0	0
3半旬	21	7.4	4	4.1	1	1.6
4半旬	23	14.2	6	8.3	3	6.4
5半旬	24	18.2	8	10.8	11	14.1
6半旬	26	24.2	12	13.3	21	20.8
平年数	10		10		10	

注) -は未調査

## E. あぶらな科野菜

### 1. コナガ 発生量 少

フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は、長沼町及び芽室町で平年並、比布町、北斗市及び訓子府町では平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	7	9.6	5	34.6	2	37.5	2	5.7	0	2.9
2半旬	10	12.5	20	40.7	25	36.3	4	7.6	4	2.5
3半旬	15	8.6	47	67.0	25	37.6	12	10.3	0	9.1
4半旬	9	8.7	18	54.7	18	39.6	10	9.3	2	6.1
5半旬	6	11.7	22	60.6	7	28.7	17	13.6	2	9.2
6半旬	10	16.4	30	42.6	30	33.2	4	7.2	2	13.2
平年数	10		10		10		9		10	

## F. りんご

### 1. モニリア病 発生期 - 発生量 少

長沼町（無防除）と余市町（慣行防除）の予察園では、葉腐れ及び花腐れは認められなかった。一般園における巡回調査結果では、発生は認められなかった。

予察園におけるモニリア病の初発期

地点	品種名	防除有無	葉腐れ		花腐れ		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	無	未発生	-	未発生	-	-
余市町	昂林	有	未発生	-			-

注) 平年値なし

予察園におけるモニリア病の発生状況

地点	品種名	防除有無	調査時期	花葉叢率(%)				平年数
				葉腐れ		花腐れ		
				本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	無	5月1半旬	0	0	0	0	10
			2半旬	0	0	0	0	
			3半旬	0	0	0	0	
			4半旬	0	0	0	0	
			5半旬	0	0	0	0	
			6半旬	0	0	0	0	
余市町B	昂林	有	5月1週目	0	0			6
			2週目	0	0			
			3週目	0	0			
			4週目	0	0			
			5週目	0	0			

注)長沼町の平年値は2022年まで昂林

一般園におけるモニリア病の巡回調査結果

普及センター		発病花葉叢数	
		本年	前年
後志	北後志	0	0
胆振	本所	0	0
渡島	本所	0	0
留萌	南留萌	0	0

注) 1樹当たり発病花葉叢数、10樹調査(開花直前)

2. ハマキムシ類 発生期 並 発生量 やや少

ミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化最盛期は、長沼町の予察園で5月8日(平年:5月6日)と平年並であった。開花直前の被害花叢率は21%(平年:33.2%)と平年よりやや低かった。

## **BLASTAMならびにFLABSの運用について**

水稲の葉いもち発生予察システム「BLASTAM(ブラスタム)」による広域発生期判定結果、ならびにばれいしょの疫病初発予測システム「FLABS(フラブス)」による予測結果を防除所のホームページに掲載します。

アドレス(<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>)または「北海道病害虫防除所」で検索してください。

「BLASTAM」では、道内約50地点について、葉いもちの感染好適日を判定します。

「FLABS」では、道内約25地点の農作物生育状況調査ほ場(作況ほ)等の萌芽日をもとに疫病の初発日予測を行います。

「BLASTAM」、「FLABS」とも随時更新していきますので、計画的な防除にお役立て下さい。

令和 8 年

6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

農薬ラベルに記載されている安全使用上の注意または被害防止方法を確認しましょう

作物名	適用病害虫名	有効成分	使用濃度	使用回数	本剤の使用回数	使用期間	使用場所	農薬の取り扱い	被害防止方法
稲	コブメイガ	10008							
	ヤマダシロコバエ	10008	60～150 L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	使用時：農薬の取扱い	
	イナダシロコバエ	20008							
カメムシ類	20008								

OK?

その装備、準備バッチリ？

農薬散布時は、薬剤の直接付着や吸い込みを防ぐため、適切な防護装備を着用することが最重要です。

- ✓保護メガネ
- ✓農薬用マスク
- ✓不浸透性防除衣
- ✓不浸透性手袋
- ✓長靴

使用後は直ちに着替え、衣服を洗濯し、手洗い・うがい・入浴を徹底してください。

[https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_tekisel/](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisel/)

農薬の適正使用 農林水産省

検索



令和 8 年度農薬危害防止運動 農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

北海道

令和 8 年 6 月 1 日～8 月 3 1 日

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法などについては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

URL <https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

北海道農政部生産振興局技術普及課  
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)  
北海道病害虫防除所  
(TEL 0123-89-2080)  
各総合振興局・振興局農務課